百人一歩通信

第15号

2021年 (令和3年) 4月

～「一人の百歩より百人の一歩」の社会を作ろう～

やっぱり温暖化？　サクラの開花が早いですね。
コロナはなかなか収束の兆しが見えませんが、耐えるしかないでしょうか。でも経済的支援は必須です。
また、医療関係の皆様、本当に大変なことと思います。十分な休養といい食べ物で、皆さん頑張りましょう。

【発行】　今井和夫とともに歩む「百人一歩の会」
【代表】　今井和夫（宍粟市市議会議員）
〒671-3211 兵庫県宍粟市千種町岩野辺 1065
☎090-9610-2511 ✉ tamago@imaifarm.jp

今回は、4年間の議員活動を通して感じたこと、また、今後への思いをまとめてみました。
今まで書いたことと重複することも多いですが、ご一読いただければ幸いです。

1　旧町（旧村？）単位での自治の確立を

2005年の合併以来「宍粟はひとつ」として、様々なことが統一されてきました。しかし、各地域ごとに歴史、風土があります。

「自分たちの地域のことは、自分たちで考え、自分たちで決めて、自分たちで行動する」。これが民主主義の大前提だと思うのですが、その意識を持つには、宍粟市は広すぎます。

やはり、**旧町単位や旧村単位で、物事を決定できる組織を作るべき**かと思います。そして、そこには予算をつける。

市当局も、その方向性は考えられていますが、なかなか進みません。まず各地域へしっかりと人を配置し事務局を作る。これが必要かと思います。そして、予算も決定できる組織をつくる必要があるかと思います。メンバーの選び方は各地域で決めていけばいいと思います。できれば若者を多く入れて。あるいは、半分は女性とか、それも各地域ごとに決めればいい。それが民主主義です。

そうやって、もう一度、自分たちの地域のことを自分たちで考える組織を作る。**これがまさに人口流出を防ぐ『第1のダム』**だと思います。市民局の造り替えだけではダムになりません。気持ちがその地域に向かうことが必要かと思います。（それができれば、市議会議員の数はもっと減らしてもいいかもしれません。）

2　食・木材・エネルギー（電気）の自給のまちに

宍粟の特徴は、何といっても、豊かな自然環境でしょう。それは、食、木材、エネルギーの生産地ということです。これが今、ほとんどが外国からの輸入に頼っている。地方が衰退するのは当たり前です。

この状況に対してのアプローチなしで人口減対策、過疎化対策などもあり得ないと私は思います。にわかに観光などに取り組んでみても、**宍粟の美しい景観は先人たちが生業（なりわい）として営々とされて来た農林業によるものであり、地域資源をもとにした自給的暮らしによるものなのです。**つまり、「美しい景観」を守るということは、それを作ってきた農林業や農的暮らしを守るということなのです。

①　食の自給

危険な輸入食品

今や、私たちの食べ物は6割以上が輸入物。それには、遺伝子組み換え、残留農薬、防虫剤、防かび剤、様々な薬剤が含まれています。日本人は、今世界で一番危険な食品を食べています。主な物は、家畜のエサのトウモロコシと小麦と大豆です。肉、卵、パン、麺類、お菓子、醤油、味噌、油…。これらを通して**私たちは毎日、遺伝子組換や除草剤、様々な薬剤を食べています。**

それが腸内細菌に悪影響を与え、免疫力も弱り、様々な病気を引き起こしているということが、最近、ハッキリと分かってきました。

そして、食を輸入することにより、地域の農業はなくなり、ひいては、仕事がなくなり人がいなくなり荒れてしまう。

なんと愚かなことをしているのでしょう。今の農政が続けば、コメも半分以上は輸入になり、宍粟のような中山間地の農村は消滅します。

コメ作りが若者の仕事になるためには

まず、なんとかコメ作りは守りましょう。それには、若者がコメ作りを仕事にできるようにするしかないのです。

それには、**しっかりした補助金の確立**が必須。

2021年度、宍粟市では、「これからの宍粟市農業の在り方を考える中で、宍粟北みどり農林公社や異業種からの農業参入により、個別ではなく大きな単位での農地保全を図る**『宍粟市農業モデル』**の構築をめざします。」ということです。（宍粟市施政方針1ページ目）

2021年度に検討し、2022年度から始めると。大いに期待したいところです。そこで、若者を雇用しコメ・麦・大豆をつくることになれば素晴らしい。そのためには、大きな予算投入が必要です。その実現には、皆さんの声が大きな力となります。**「予算を投入して農地を守っていこう」と声を上げてください。**

コメの値段の見直しを

補助金の他に、より安全で美味しいコメをつくり、正しい値段で買い取ることも一つの方法です。農家手取りが30kg8,000円では後継者は育ちません。30kg14,000円だと後継者は成り立ちます。若者がどんどん田んぼを始めます。耕作放棄田もなくなり、地域はずっと続きます。高いようですが、実はそれでごはんお茶碗一杯39円。決して高くない。今が安過ぎるのです。（30kg8,000円だとお茶碗一杯22円。）

例えば、しっかり研修した若い生産者を認定し、除草剤一回のみで食味値検査の高いコシヒカリは30kg14,000円で市が買い上げる。（無農薬有機米ならもっと高く。）それを、少しマージンをつけた値段で、ふるさと納税とか宍粟市出身者等、全国的にアピールし買ってもらう。「美味しい安全なコメでふるさとを守ろう」と。マスコミにも取り上げてもらう。今の農業の現実をしっかり伝え「あなたが買うことで地域が守れる、日本の農業

が守れる」と。もちろん、市民にも買ってささえてもらいたいです。

そもそも、30kg8,000円は中山間地では労賃が全く入ってない価格なのです。それで「若者がいなくなる～」と嘆く方がおかしいのかもしれません。この方法なら若い生産者も安心して作れます。JAとタイアップしてできるのではないでしょうか。

他にもいろいろと方法があるかもしれません。アイデア募集します。

いずれにしても、本来は、国がしっかりと補助金を出し、コメを守るのが国政のはずです。それができるまでの暫定措置です。

麦・大豆も自給して健康に

コメ作りで経営が確立できれば次々と自給は広がります。

山崎や一宮南部では麦も裏作で作れるかと思います。パン用の麦を作り、パンを作りましょう。まさに『山崎パン』です。安全なパン、パスタ、お菓子、麺類、…。そして、大豆も作って、味噌・醤油・納豆・豆腐・油…。市民がまず自給し、そして、健康になる。

そんなまちになれば、一気に宍粟市の注目度は上がり、移住者も間違いなく増えます。北部は、コメと畜産、コメと林業、（コメと製麺業）が適地なのだと思います。課題は多いですが、大きな目標を持ち、一歩ずつ実現していきたいです。

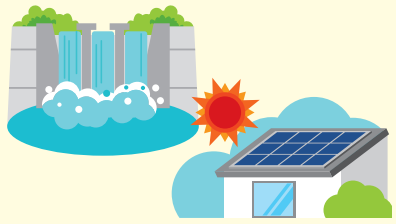
② 木材と燃料、電気の自給

何といっても宍粟は山・林業です。森林環境譲与税もできました。宍粟材の使用、ペレットを生産してペレットストーブや薪ストーブの普及。

山を再整備して、杉・檜ばかりでなく、秋になると紅くなる広葉樹も植え、鹿・猪・クマの住みかも作り、水を良くし、洪水を防ぐ。広葉樹は天然のダムです。

そして、小水力発電や太陽光発電（これは環境破壊に要注意です）です。2030年以降、世界中でガソリン車販売禁止になっていきます。替わりはEV、電気自動車です。

食料・木材・燃料・電気が自給できるようになれば、宍粟市は非常に可能性のあるところとなります。



今はまだ課題が多いですが、2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロを国も言わざるを得ない世界の流れです。必ず、それにむけての施策が打ち出されるでしょう。それでおカネが降りて雇用が生まれます。

3 獣害対策

上の農業の確立で欠かせないのが獣害対策です。今、ホントに北部は鹿・猪の楽園です。（聞けば山崎の商店街にも鹿が出るとか。）なんとかしないと、何も作れません。

「捕獲と柵の点検」　とりあえず、これに尽きると思います。猟友会の皆さんもご努力いただいていますが、もうそれで間に合わない状況にもなっています。地域で、もっと多くの方に捕獲してもらえるような体制作りが必要かと思います。

これは**高齢者の生き甲斐作りにも直結します。畑作業は高齢者の大きな楽しみの一つですが、獣害がひどいとやる気をなくします。そのためにもこれは頑張りたいです。**

そして、長期的には山の再生です。彼らの住みかを作らないと解決しません。

4 子どもたちには自然いっぱいの体験を

最後に、宍粟市が進むべき道の中で、最近気になることとして、教育のＩＴ化があります。

2020年度中に小中学生一人一台のタブレットが用意されました。プログラミングの授業も始まるとか。

時代の流れと言えばそうなのでしょうが、私は子どもたちがタブレットなどのバーチャルな世界で満足してしまわないか、とても心配します。

おそらく教材もどんどんいいものができてくるでしょう。そうすれば、教室で座っているだけで何でも見て分かったような気になる。

でも、タブレットでは、産みたて卵のぬくもりは分かりません。鶏をダッコしたときの暖かさは伝わりません。私の養鶏場に年一回、近くの小学生が体験に来てくれるのですが、最近、鶏の部屋に入るのを怖がる子が増えているように思います。以前、学校に鶏がいるときはそんなことはありませんでした。

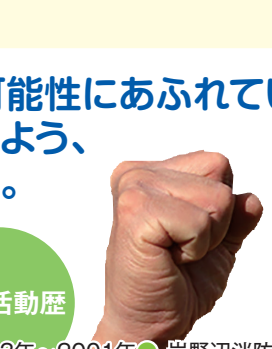
子どもは何よりも、いろんな実体験が一番大切だと思います。それも、自然の中で。**今、圧倒的に少ないのが、野山、畑、川等、野外での仲間との遊びです。**自分たちでいろんな物を作り、人間関係も学び～、本当はこれで一番大切なことが身につくのだと思います。まさに「生きる力」です。

つい先日の新聞に養父市農業特区のことが書いてありました。その中で、「これからの農業はスマート農業だ。自動で夜中でも耕耘や田植えをする。ワクワクしますね～」と書かれてました。私は「ゾーとする」のですが。自動運転が発達すれば、ますます田舎から人が消えます。誰もいない夜中、トラクターの音だけが響いている～。

農業は、人が自然の中で季節の風を感じながら、自然との共同作業で行われるものです。ウグイスを聞きながら草取りをし、夏の夕暮れの風でほっとする。それが農業の楽しさであり醍醐味です。でも、経験がなければそれは伝わらない。

読み書き計算の基礎学力と、地域の資源を活かした感性を豊かにする体験学習。まずこれをしっかりやってもらいたいです。時代に流されず、人として一番大切なことを見失わないようにお願いしたいです。

宍粟市は素晴らしいまちになる可能性にあふれています。子どもたちに誇れるまちを残せるよう、みんなで一歩ずつ頑張りましょう。



今井和夫 プロフィール

- 1958年(昭和33年)　5月5日生まれ　兵庫県明石市出身
- 1977年　兵庫県立加古川東高校卒業
- 1981年　慶應義塾大学経済学部卒業
- 1982年～1988年　大阪市立中学校教諭
- 1989年（平成元年）　宍粟郡(現・宍粟市)千種町中島に転居
- 1989年～1990年　千種町岩野辺に1年かけてセルフビルドで家を造り転居
- 1990年～1993年　セルフビルドで鶏舎建築
- 1990年～　平飼い自然養鶏を始める「いまい農場」開設　皆様に支えられ現在に至る

主な活動歴

- 1993年～2001年　岩野辺消防団
- 1993年～　空手教室「千空会」主宰
- 1993年～　岩野辺獅子保存会会員
- 1994年～1998年　岩野辺子ども文庫開設
- 1998年～2003年　ミニコミ誌「グラフ岩野辺」主宰
- 2000年　宍粟郡連合PTA会長
- 2002年　千種町学校給食設立委員会委員長
- 2011年～2017年　千種町野菜生産組合会長
- 2012年～2014年　全国自然養鶏会会長
- 2014年～　千種町町づくり推進委員会広報部長　広報誌「ええとこ通信」発行に携わる
- 2017年4月　宍粟市市議会議員当選　「百人一歩通信」　発行（14号）

議員HP　議員ブログ

最後までお読みいただきありがとうございました。ご意見、ご感想、ご指導、・・何卒よろしくお願い申し上げます。